令和6年 学長年頭挨拶

教職員の皆さん、令和6年が明けました。

ご存知のように、1月1日の能登半島地震により、能登半島を中心として大きな被害が発生しています。先ずは被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げます。現在も予断を許さない状況が続いておりますが、被災された皆様及び復旧に尽力されている方々の安全と被災地域の一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、昨年は、5 月に COVID-19 の感染法上の位置付けが 5 類に変更になったことから、3 年半に渡るコロナ禍からやっと脱することができました。経済も回復しつつあり、インバウンド需要も高く、徐々にではありますが、コロナ禍前の状態に戻りつつあることを実感しています。

そのような中、本学経済学部卒業生である Milojko Spajic 氏が昨年 10月にモンテネグロの首相に就任されたとのニュースが届きました。ヨーロッパで最年少、36歳での就任です。本学は昭和 24 年に創立されてから、9 万人を超える卒業生、修了生を世に送り出して参りました。卒業生、修了生は経済、行政、学術などあらゆる方面で活躍され高い評価を得ていますが、今までに、首相になられた方は初めてで、誠に喜ばしいことです。今後の Spajic 氏の活躍に期待するとともに、日本とモンテネグロの関係が強化されることを願っています。

このほかにも、昨年は特筆すべき進展がたくさんありました。例えば、教育面では、Active Learning 科目をさらに充実させており、企業との課題解決型プログラムも増えています。授業の中の提案が事業化されるなど、学生にとって貴重な経験になっていると考えています。また、障がいを持つ学生を全学的に支援する障がい学生支援室の整備も進めました。さらに、コロナ禍を越えて戻りつつある留学の支援にも力を入れており、5年ぶりに日本留学 AWARDS「留学生に勧めたい進学先」国公立大学部門（東日本）に入賞しました。今後も課題解決能力や国際感覚を身に付けた Society5.0 時代に対応できる人材育成を推進します。

研究面では、社会変革研究センターを設立し、カーボンニュートラルの実現に向けたアクションプランを策定するなど、脱炭素や地域共創の取組をさらに加速させることができました。戦略研究センターでも、田代教授らが長年携わってきた X 線分光撮像衛星(XRISM)の打上げ成功など、いくつもの成果を上げています。

その他、昨年は創基 150 周年を記念して、図書館の官立旧制浦和高等学校の記念資料室のリニューアル、ホームカミングデーでの記念講演会を実施しました。また、連続市民講座をはじめとした多数の公開講座や、「埼大学生広報サポーター」による地域の企業や自治体と連携したイベント等、社会と連携した様々な取組も行っています。そして昨年3月には女子栄養大学と包括連携協定を結び、県内大学とさらなる連携を深めています。

これらはほんの一例ですが、このような成果を残すことができたのも、皆さんお一人お一人のご尽力の賜物であります。この場を借りて、全ての教職員の皆さんの努力とご協力に対してお礼を申し上げます。ありがとうございました。

今年は、4 月から教教分離を導入して、本学の強みの一つである All in One Campus の実質化を進めたいと考えております。負担の平準化を考えながら、学部間、研究科間の連携を一層強めて本学の機能をさらにアップして参りたいと思います。また、同時に、全学のペーパーレス化や業務の簡略化を目指す DX と教職協働のための仕組みづくりを加速させたいと考えております。様々な場面で皆さんの力を借りることになろうかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、例年と同様に、教職員の皆さんにお願いがございます。
今年度は 1 月 13 日、14 日に大学入学共通テストが行われます。また、2 月、3 月には個別試験も予定されています。

入試業務はアドミッションポリシーに沿って学生を選抜する、大学にとって重要な仕事です。例年同様、公正な入試を実施して参りたいと存じますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆さんと皆さんのご家族のご健康、そして令和6年が充実した一年となりますよう祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和6年1月4日
埼玉大学長 坂井 貴文